

科目		機械力学I (Dynamics of Machinery I)	
担当教員		尾崎 純一 教授	
対象学年等		機械工学科・4年D組・前期・必修・1単位(学修単位I)	
学習・教育目標		A2(20%) A4-M3(60%) A4-M4(20%)	JABEE基準1(1) (c),(d)1,(d)2-a,(d)2-d,(g)
授業の概要と方針		3年の工業力学に引き続いて動力学と振動の基礎について学習する。また、工業力学全般の演習を行い、力学の基礎力向上を図る。	
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【A2】運動量、力積の概念を理解し基本的な問題を解くことができる。		運動量と力積の概念を理解したかどうか中間試験、定期試験、課題(レポート)で評価する。
2	【A2】運動量保存則を理解し基本的な問題を解くことができる。		運動量保存則が理解できたかどうか中間試験、定期試験、課題(レポート)で評価する。
3	【A4-M3】振動の基本的事項を理解し、基本的な問題を解くことができる。		振動の基本的事項である周期、振動数、固有振動数を理解できたかどうか中間試験、定期試験、課題(レポート)で評価する。
4	【A4-M4】簡単な衝突の現象を理解し基本的な問題を解くことができる。		衝突の現象を理解できたかどうか中間試験、定期試験、課題(レポート)で評価する。
5	【A4-M4】これまで学習してきた工業力学全般について基本的事項を理解し、簡単な問題を解くことができる。		これまで学習してきた工業力学全般について基本的事項を理解し、簡単な問題を解くことができるかどうか中間試験、定期試験、課題(レポート)で評価する。
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価		成績は、試験85% レポート15% として評価する。試験成績は中間試験と定期試験の平均点とする。100点満点で60点以上を合格とする。	
テキスト		「詳解 工業力学」：入江敏博著(理工学社)	
参考書		「工業力学」：青木弘・木谷晋著(森北出版) 「工業力学」：吉村靖夫・米内山誠著(コロナ社) 「ポイントを学ぶ工業力学」：鈴木浩平・真鍋健一編(丸善) 「工業力学入門」：伊藤勝悦著(森北出版) 「ビジュアルアプローチ 力学」：為近和彦著(森北出版)	
関連科目		工業力学(3年)、機械力学II(4年)	
履修上の注意事項		本授業は3年で学習する工業力学の続きであるため、3年で履修した内容をよく復習し理解しておくこと。	

